

Microsoft Azureのクラウド環境上にSAP ERPをマイグレーション、 インフラコストを最適化しつつ災害対策も強化

株式会社いい生活 様

SAP ERP導入事例

不動産市場向けの革新的なクラウドサービスを提供する株式会社いい生活。同社は2010年にSAP ERPとSAP CRMを導入し、オンプレミス環境で運用していましたが、サーバーOSのサポート切れを迎えるにあたって業務システムのクラウド化を決断。約4カ月をかけてSAP ERPのMicrosoft Azure上へのマイグレーションを行いました。この移行には、クラウド環境におけるSAPシステムの構築・運用実績が豊富なNTTデータグローバルソリューションズのノウハウが大きく貢献しており、パフォーマンスを維持しながらインフラコストを最適化したほか、東西2つのデータセンターを用いたBCPの強化も実現しました。



執行役員
CIO
Webソリューション
開発グループ
鈴木 隆喜 氏



Webソリューション
開発グループ
業務システム部
部長
長峯 太郎 氏

サーバーOSのサポート切れを 契機に業務システムをクラウドへ移行

紙を使ったアナログな情報管理が残る不動産業ですが、そうした業界に風穴を開けたのがいい生活です。2000年に設立された同社は、不動産業に特化したクラウドサービスを提供することで業務の効率化や情報の量的・質的改善を支援しており、現在、同社のサービスを利用している不動産会社は約1,300社、約2,900店舗に達しています。

いい生活では、事業の成長に合わせて2010年にSAP ERPの会計モジュールと顧客管理システムのSAP CRMを導入。会計データと顧客データを紐付けて管理する業務システムを構築しました。それから約5年がたち、サーバーOSのサポート終了やハードウェアの老朽化が迫るなか

同社はITインフラの更新を検討。最終的にパブリッククラウドの採用を決断したのです。その理由について、同社のWebソリューション開発グループ業務システム部 部長の長峯太郎氏は次のように語ります。

「社内のITインフラの整備は業務システム部が担当していますが、業務システム部の限られたリソースを本来の業務であるIT活用推進や社内業務の効率化に向けるためにも、インフラ運用の効率化は必須でした」

また、同社は中期計画において、全ての社内システムのクラウド化を主要なテーマのひとつとしています。これについて執行役員CIOの鈴木隆喜氏は「全国向けのクラウドサービス事業者としてBCPへの厳しい要求があり、それに現実的なコストで応えるために社内のシステムをすべてクラウド化する計画を立てました。その中核となるのが、▶

導入ポイント

- ◆ Microsoft Azure上へSAP ERPをマイグレーション
- ◆ オンプレミスに劣らないパフォーマンスを実現
- ◆ Microsoft Azureの東日本と西日本のリージョンを用いてBCPを強化
- ◆ 運用監視ツール「Hinemos」でシステム監視とバックアップ等のジョブ管理を一元化



会社概要

株式会社いい生活

設立	: 2000年1月21日
資本金	: 6億2,841万円 (2015年3月末現在)
売上高	: 18億5,179万円(2015年3月期)
従業員数	: 131名(2015年3月末現在)
本社所在地	: 東京都港区南麻布5-2-32
URL	: http://www.e-seikatsu.info/
事業内容	: 不動産業向けクラウドシステム・アプリケーションおよびデータベース・アプリケーションの開発・提供



会社紹介

不動産業のさまざまな業態や業務に対応したシステムの開発を行っており、同業界向けのワンストップソリューションをクラウドサービスというかたちで提供しています。現在は、「物件情報データベース構築・管理」、「不動産ポータルサイト一括投稿機能」、「顧客情報管理」、「契約情報管理」、「営業支援」、「賃貸管理」、「ホームページ構築ツール」などの機能を提供。2012年4月には、賃貸から売買まで不動産業のビジネスに関する膨大なデータを一元管理する「ESいい物件One」をリリースしました。同サービスは、2015年10月に行われた「ASPICクラウドアワード2015」(主催: ASP・SaaS・クラウドコンソーシアム)において、社会・業界特化系グランプリを受賞しています。



ES いい物件 One

つなぐ、不動産クラウド。

今回移行したSAP ERPと現在移行準備中のSAP CRMだったのです」と語ります。

クラウド環境へのSAP ERPの導入実績と コンサルタントの技術力を評価

いい生活は検討の上、インフラの土台となるクラウド環境として、Windows Server上で稼働している多数の業務システムとの相性が良く、導入初期の試行錯誤に対して費用的なメリットが大きいMicrosoft Azureを選定。導入パートナーには、NTTデータグローバルソリューションズ(以下、NTTデータGSL)を指名しました。NTTデータGSLを採用した理由について、鈴木氏は「実績と技術力」のふたつを挙げて次のように語ります。

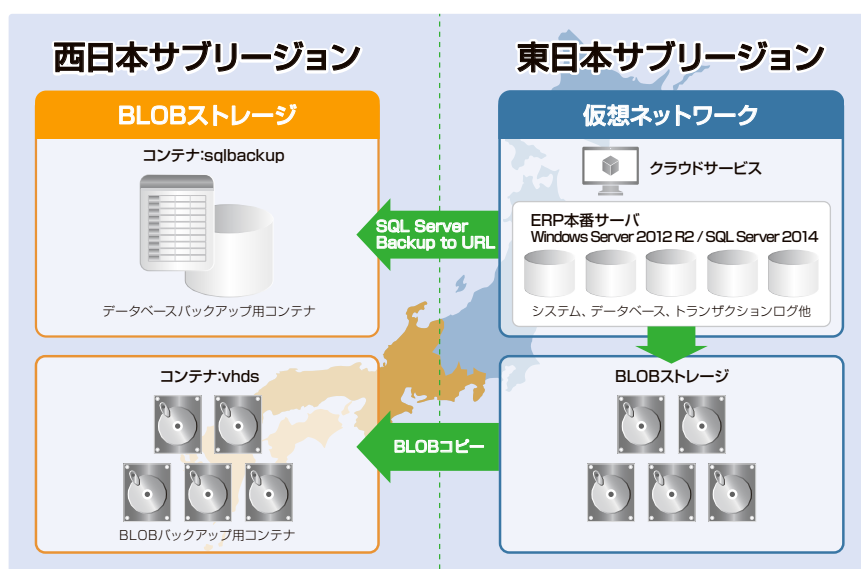
「NTTデータGSLは、パブリッククラウド上にSAP ERPを導入した実績が豊富にあることから、Microsoft Azure上へのマイグレーションも安心して任せられると思いました。コンサルタントの技術力も高く、提案内容が的確だったことも決め手になりました。また、NTTデータGSLには既存のSAP ERPとSAP CRMのアプリケーション保守(AMO)を導入当初からお願いしており、そこで蓄積されたノウハウが活用できるのではないかと期待したのです」

チューニングの工夫でオンプレミスに 劣らない高いパフォーマンスを実現

移行プロジェクトは、まずWindows Server 2003上で稼働しており、OSのサポート終了が迫っていたSAP ERPを移行する方針で、2015年3月にスタートしました。具体的には開発機、検証機と順次移行し、本番機の移行リハーサル、本番機の移行を経て、2015年7月21日に本稼働を開始しています。「サーバー OSをWindows Server 2012 R2にバージョンアップするとともに、データベースもSQL Server 2014へ更新しました。そのためにはSAP ERPにSP(サポートパッケージ)を適用する必要があり、検証は念入りに行いました」(長峯氏)

SAP ERPのアプリケーションの移行については、AMOサービスで保守を担当していたNTTデータGSLがパートナーになったことで、スムーズに進められたといいます。「OS、データベース、SAP ERPのバージョンアップによってアプリケーションにどれだけ影響が出るかわからない状況のもと、事前に予測できる作業を業務委託として発注し、不確定要素は別途AMOサービスとして依頼するかたちを取れたため、納得感のあるコストで移行できました」(長峯氏)

そして今回の移行において大きな課題となった



のが、パフォーマンスとコストの最適化でした。性能指標をモニタリングしながらCPU、メモリ、ストレージの組み合わせを変えたり、OS、データベース、SAP ERPの設定値を見直したりしながらチューニングを繰り返しました。「お金に糸目を付けなければ、高いパフォーマンスを得ることも比較的容易ですが、予算の制約がある以上そうもいきません。そこで、NTTデータGSLとマイクロソフトに技術協力を仰ぎ、要求性能を満たしつつ最も費用を抑えられるような構成、設定を追求しました」(鈴木氏)

システム運用面では、NTTデータグループが提供するオープンソースの運用監視ツール「Hinemos」を利用し、低コストでの運用監視体制を構築しています。これについて長峯氏は「Hinemosはジョブコントローラーを標準で装備しており、システム監視とバックアップ等のジョブを一元的に管理できます。また、Microsoft Azureの操作ログを蓄積する機能も追加していただきました。チームでインフラを運用する上では、誰がいつ何を変更したか追跡できることが重要で、その部分を補完することができました」と述べています。

東西2カ所のデータセンターで 10分に1回の遠隔地バックアップ

2015年11月現在、SAP ERPをMicrosoft Azure上に移行してから4カ月がたちましたが、以前と変わることなく従来通りの業務ができており、チューニングの効果もあって利用者の実感として処理スピードが向上しているそうです。

そして、導入の最大の効果といえるのが災害対策の強化でした。以前は、月に1回、運用担当

者が手作業でテープを交換してバックアップを取得し、物理的に離れた場所に保管していました。それが今では、データベースを1日に1回、トランザクションログを10分に1回の頻度で遠隔サイトへ自動バックアップ。かつオンライン操作のみで遠隔サイトへSAP ERPを復旧できるようになり、BCPの強化と運用業務の効率化が進んでいます。

なおMicrosoft Azureは、東日本と西日本にデータセンターがあり、高速な専用線で結ばれています。そこで同社は、SQL Server 2014の新機能(SQL Server Backup to URL)を用いて東日本にある本番サイトから西日本の遠隔サイトへ直接バックアップするようにしました。

「高頻度の遠隔バックアップ等、期待を超えたBCPを実現できました。ネットワークのスピードも十分で、遠隔地にあることを意識することなくバックアップが取得できます」(長峯氏)

NTTデータGSLの協力のもと 業務システムの完全クラウド化を目指す

いい生活では今後、SAP CRMをはじめとした他の業務システムも順次Microsoft Azure上に移行していく計画で、2017年中の完全クラウド化を目指しています。

「そのためにもNTTデータGSLには、Microsoft Azureに関する知識とノウハウを随時フィードバックいただき、最適な環境の構築にご協力いただければと思います」と鈴木氏は期待を寄せています。

NTTデータGSLはこれからも、クラウドに関する技術のキャッチアップやノウハウの蓄積を通じ、不動産業界で躍進するいい生活のビジネスを柔軟に支援していきます。

株式会社 NTTデータ グローバルソリューションズ

E-mail infoevent@nttdata-gsl.co.jp URL <https://www.nttdata-gsl.co.jp/>

【本 社】 〒104-0045 東京都中央区築地5-6-4 浜離宮三井ビルディング 4F
【西日本オフィス】 〒541-0053 大阪府大阪市中央区本町2-6-8 センバ・セントラルビル 3F

※SAP及びその他のSAPの製品やサービスは、ドイツ及びその他の国におけるSAP SE(またはSAPの関連会社)の商標もしくは登録商標です。
※その他記載されている会社名、製品名、ロゴなどは、各社の登録商標または、商標です。
※本リーフレットに掲載されているロゴ、文章、写真その他のイラストを無断で転載、複製、再利用を禁止します。
※記載されている企業名および担当者の情報は取材当時のものです。

Facebook 公開中！

「いいね！」して下さい！

いいね！

<https://www.facebook.com/nttdatagsl>